

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1490900618
法人名	株式会社 ゆい
事業所名	グループホーム のぞみ
訪問調査日	令和3年5月31日
評価確定日	令和3年7月16日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900618	事業の開始年月日	令和2年4月1日	
		指定年月日		
法人名	株式会社 ゆい			
事業所名	グループホームのぞみ			
所在地	( 223-0062 )			
	横浜市港北区日吉本町6-66-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	令和3年5月21日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、御一人御一人の性格や気持ちなどを理解し、健康面に気遣い毎日が、笑顔で楽しく過ごされ一瞬一瞬に喜びを感じられるよう心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和3年5月31日	評価機関 評価決定日	令和3年7月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社ゆいの経営です。同法人は横浜市港北区と青葉区で小規模多機能型居宅介護施設、グループホーム、訪問介護、福祉用具の貸与・販売など在宅介護支援事業を展開しています。グループホームのぞみは、同施設内に併設して看護小規模多機能型居宅介護も併設しており、グリーンライン「高田駅」から約徒歩10分の閑静な住宅地の一角にあります。

●事業所では法人の基本理念・方針「その人らしく生きる」ことができるよう、～その一瞬を大切に～を基本理念とし、会議や申し送り時にも利用者が「自分らしく生きていくため」にどのような支援が必要かを考えながらケアにあたっています。また、事業所の移転後新たに「いつも笑顔が絶えない明るい施設」を事業所の目標とし、この目標を実現するために利用者とのコミュニケーションに重点をおき、一人ひとりへの傾聴を大切にしながら、利用者の要望に合わせた支援を行い、利用者の笑顔を引き出せるよう注力しています。また、職員間の「報・連・相」を徹底し、利用者の心身の状態・ケア方針の情報共有をはじめ、ヒヤリハットについても常に情報共有を図るなど、リスク軽減にも努めながらケアに当たっています。

●今年度は新型コロナウイルス感染の蔓延に伴い、室内のアルコール消毒・1ケア1消毒・職員の体調管理を徹底し、利用者の安全確保・家族に安心していただけるようケアにあたっています。また、地域との交流や外出機会をもてない状況下において下肢筋力の低下防止や気分転換につなげる為、レクリエーション委員会を中心に様々な取り組みを行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム のぞみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		✓	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		✓	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		✓	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生きる～その一瞬を大切に～」常に玄関や入口、事務机に掲示し、職員はどのように自分らしく生きていくことができるかを常に念頭に入れ、利用者様が一瞬一瞬に喜びを感じられるよう心がけています。	法人の理念「その人らしく生きる～その一瞬を大切に～」を玄関やユニットの入り口などに掲示し、周知を図っています。ユニット会議や申し送りでも、利用者が「自分らしく生きていくため」にどのような支援が必要かを考えながらケアにあたっています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会自治会に加入しておりますが、コロナの影響のため、町内の行事には参加できておりません。	事業所の開設前に内覧会を開催し、地域の方々に見学していただきながらグループホームの特性を理解していただくようにしています。町内会にも加入しており、町内行事のお知らせもいただいておりますが、現在はコロナ禍の為、全ての行事が中止となり、交流の機会は設けられていません。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前に地域の方々にお声掛けし、内覧会を開催しております。また、認知症の理解を深めるための講座も予定しておりますが、コロナの影響のため実施できておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヵ月に1回、民生委員・町内会・地域支援包括センター・協力医療医師（内科・歯科）・看護師・薬剤師・ケアマネ・家族代表者などに参加していただき、サービス向上に取り組む予定ですが、コロナの影響のため書面にての報告となっております。	民生委員・町内会・地域包括支援センター・協力医（内科・歯科）・看護師・薬剤師・家族代表に参加していただくように声かけして、3ヶ月に1回開催しています。現在は一堂に会しての開催は行わず、参加メンバーの方々に郵送し、事業所の現状や活動報告を書面にて行っています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所地区担当職員と入居状況など、情報交換を行っています。また、グループホーム連絡会に出席し、情報を得ています。	港北区の担当者とは入居状況をはじめ、不明点などが生じた際には連絡を取り合い協力関係の構築に努めています。また、横浜市や港北区から研修や講習会の案内が届いた際には、職員に内容を周知し、必要に応じて参加を促しています。さらに、グループホーム連絡会に出席して、情報収集に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、研修会に参加して、あらゆる状況において職員がミーティングを行い、意見や情報を共有しています。また1F事務所には身体拘束についての資料を置いてあります。	身体拘束のマニュアルを整備し、いつでも閲覧できるように事務所に置いてあります。身体拘束については、内部研修の他・外部研修にも参加し、様々な事例などの資料を収集しています。ミーティング時に資料を基に意見交換しながら情報共有を図り、身体拘束・虐待のないケアにつなげています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待についての自己チェックを実施し、全職員へ再認識の機会を設けた後にミーティングでの共有をするように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	仕組みについて社内研修でも議題に上げ、知識を共有しております。1F事務所にも権利擁護に関する資料を置いてあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様・ご家族と一緒に面談を行い、理解や納得をしていただいた上で、契約を結んでいます。また、常にご家族様と話しやすい場を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本来、「面会ノート」を作成してご家族に自由に意見を書いていただく予定でしたが、コロナの影響のため、できない状況です。管理者が電話や直接お目にかかってご意見を伺い活かしております。また、利用者様の近況を様々な行事の写真とお手紙でお伝えしております。	「面会ノート」を作成し、来訪時に気づいたこと・要望などを記入していただく予定としていましたが、コロナ禍の為に面会を制限しており、電話や直接家族の自宅を訪問し、意見や要望を伺うようにしています。日頃の生活の様子を書いた手紙(写真も同封)を郵送して、家族に近況報告を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や代表者へ直接提案しにくい事も、リーダーを通して提案するなど、リーダーが中心に雰囲気づくりをしています。日頃から困っていることやアイデアなどを報告してもらい、月例ミーティングに反映しています。	職員の出退勤時、業務・休憩時間にも積極的にコミュニケーションを取り、意見や提案を聴いています。また、管理者の下にユニットリーダーを配置し、リーダーを介して管理者や代表者へ提案しづらいことでも発言できるようにするなどの配慮もされています。職員からの意見や提案は月例ミーティングの議題に挙げ、意見	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・実績・勤務状況を把握し、定期的に面談を行っています。代表者が職員お意見を聞き、向上心を持って働けるよう努めています。定期的にストレスチェックのアンケートを職員に提出してもらって、面談を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、社内で勉強会を実施しておりましたが、コロナの影響で現在は中止しています。また、外部の研修に参加した職員に発表の場を設けて、情報を共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームの連絡協議会への参加や、外部研修へ参加する事で、同業者との交流につなげ、事業所のサービスの質の向上ができるよう取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される前に、利用者様の情報を得よう、心がけています。ご家族・ケアマネから情報を収集し、また今までの環境などを考慮し、安心して過ごしていただけるよう、配慮しております。何でも話しやすい環境作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず第一に、ご家族が話しやすい環境作りを心がけています。利用者様とご家族の意見に耳を傾けながら、寄り添う関係作りに努めています。またご家族が必要とした場合は、他の専門職とも連携し、対応しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族を交えて、利用者様やご家族等の必要としている支援を他のサービスを含めた対応について、検討しています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの個性を理解し、「どのようにすれば、自分らしく生きていくことができるか」を考えて、喜び（笑顔）で過ごしていただけるよう、関係を築いています。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力して、利用者様の生活を支えています。コロナの影響で面会がなかなかできないので、ご家族には日頃の状況を手紙や電話で伝え、情報を共有しています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在の利用者様は、当施設の近隣に暮らされていた方が多く、会話の中で積極的に施設の周囲についての状況や昔の話などをいつも伺うようにしています。また、ご友人の面会も積極的に受け入れたいのですが、コロナのため、現在は中止しております。	契約時に、友人や知人にも差し支えない程度に入居したことを話してくださいと伝え、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。もともと事業所の近隣に住まわれていた方が多く、会話の中で事業所周辺のことを聞くようにもしています。友人などの面会については、基本的には常時受け入れていますが、現在はコロナ禍		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様の性格・気持ちなどを理解し、職員が利用者どうしの間に入る事で、共同生活をして行く上で過剰になりすぎず、疎遠になりすぎないバランスにの良い関係性が気付けるようサポートしています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス利用を終了されたご利用者の方はおりません。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の状況や希望に沿った介護計画を作成し、意向の把握に努めています。ご家族からの情報も参考にしています。	入居前面談で本人・家族・在宅時のケアマネジャーから、これまでの生活歴・既往歴・趣味嗜好・暮らし方の希望などについて情報を聞き取り、意向の把握に努めています。入居後はアセスメントでせられた情報を基に日々の関わりの中で得られた気づきや本人の言葉を記録に残し、情報共有を図っています。本人の思いや意		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしにアセスメントし、生活歴・なじみの暮らし・環境などに応じた対応を心がけています。ご家族や利用者様のお話も参考にしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を記録し、職員同士で申し送りなどを通して、現状把握の共有に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会議（月例ミーティング）でケアカンファレンスを行い、意見を出し合い介護計画を立てています。また、ご家族の要望も聞いて、残された能力に見合った計画を作成しています。提携医とも情報を共有して、対応しています。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くはアセスメントの情報と差異がないか情報を収集しています。その後は毎月の全体会議の中でケアカンファレンスを開催し、日々の記録や連絡ノート、職員の気づきを基に、利用者の現状について意見交換を行い、残存能力やADL・IADLに見合った介護	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・経過記録バイタル表・排便食事睡眠状況の記録などを日々更新し、職員全体で把握できるようにしています。また、分かりやすい一覧表を作成して、情報共有に活用しています（介護情報）。さらに共有ノート・受信ノートなども活用し、職員間の情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族の状況、その時々生まれるニーズに対し柔軟に対応できるように、常にスタッフが情報共有しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、回覧板などを活用し、地域活動に積極的に参加を予定しておりますが、コロナの影響のため現在は実践できずしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月（内科2・歯科）、往診を受けています。また、必要に応じて、提携医と情報を共有し、医療管理支援を行っています。	入居時に事業所の協力医療機関について説明し、本人と家族の希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。毎月内科と歯科の訪問診療があり、主治医を切り替えた方は月2回の訪問診療を受けています。歯科は必要な方のみ契約して口腔ケアや治療を受けています。看護師は職員として配置しており、健康面	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員にいつでも気軽に相談できます。『往診ノート』を活用し、情報を共有して、適切な指示が受けられるようになっていきます。また、週に1回、看護職員が利用者様と直接会話して健康チェックを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関と連絡を取り合っています。入院中も直接、様子を伺いにいきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合、どのようにするか」「終末期のケアの指針」など、所定の書類に記入していただいています。担当医・看護師・家族・事業所責任者・ケアマネなどと話し合い、家族の意向のに沿った支援を行っています。また、必要に応じて再度ご家族の意向を確認しています。	「重度化した場合や終末期ケアの指針」について入居時に説明し、必要書類に記入していただいています。事業所では、医療行為を必要としない場合に限り看取りまで行うとしており、体調の変化などにより重度化してきた段階で主治医・看護師・家族・管理者による話し合いの場を設け、家族の意向を尊重した支援を行って	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「利用者様の急変時や事故発生時にどのように対応するか」という緊急時の連絡マニュアルを作成しています。補助職員の確保に努めています。消防職員、担当医などに講習会（勉強会）を開いてもらっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年数回、地域住民や消防職員も参加していただく避難訓練を当施設でおこなっています。また緊急時の対応について話し合いをおこなっています。災害に備えて、備品・備蓄を用意する担当があります。現在、コロナの影響で実施しておりません。	年2回以上は防災・避難訓練を実施するとし、地域住民や消防職員にも参加していただきながら行っていますが、現在はコロナ禍の為、地域住民や消防職員への声かけは行わず、職員と参加できる利用者のみで避難訓練を実施しました。備蓄品の管理については、担当者を決め、担当者が中心となって備蓄品を準備していま	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性・性格に合わせた対応をしています。その時、その場にて、声かけの仕方に気をつけています。言葉遣いに注意するよう心がけています。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送りやユニット会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけないよう、言動や対応に十分留意しています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底していま	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の立場・状況を考慮して対応しています。日常生活の中で、利用者様が自分で選択できるよう工夫し、誘導しています。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の利用者様の様子を行動や会話からくみ取るよう努力し、柔軟な支援ができるようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用しています。また入浴後の着替えなど、可能な方についてはご自身で服を選んでいただいたり、職員と相談して決めたりしていただいています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に洗濯たたみやテーブル拭きなど、できる範囲でお手伝いをしていただいています。また、行事や季節に合った外食や出前、あるいは普段の献立で出ないメニューを用意したりして、楽しんでいただいております。	食事の準備は職員が行っていますが、簡単な下ごしらえやテーブル拭きなど危険を伴わない範囲で手伝っていただくようにして、残存能力の維持につなげています。行事食や季節に合わせた食材を取り入れるなどして、食事を楽しめるよう支援しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎回記録し把握しています。また、その時の利用者様の状態から、職員同士で話し合い、食事形態（キザミ・トロミ）を変えています。同時に水分も摂取しやすいように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。利用者様が歯磨きをされた後、スタッフが仕上げを行いサポートしています。また、各利用者様の注意事項などを記入して、職員に分かりやすく伝えています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記入して、一人ひとりのリズムを把握し、排泄のタイミングを図っています。また、できるだけトイレにて排泄できるよう工夫や誘導を行っています。	利用者全員の排泄パターンやリズムを把握するために排泄表を活用しています。自立排泄を目指した排泄支援を心がけており、安易にオムツなどの排泄介助用品は使用せず、定時やタイミングを見計らった声かけでトイレ誘導を行い、トイレでの排泄につなげています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、看護職員や医師に相談しています。また、水分摂取や食事を工夫したり、リハビリ体操などで排泄を促したりと、薬だけに頼らない対応も行っています。また、市販の乳酸菌飲料なども活用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望にあった入浴を心がけています。入浴前の体調面や利用者様の要望にも気をつけており、必要に応じて入浴を中止したり、別日に変更したりして調整をしています。季節感を味わっていただけるよう、入浴剤（ゆず・菖蒲など）も活用しています。	週2回以上の入浴を基本とし、極力本人の希望に応じた日時での入浴支援を心がけています。安全かつ安心して入浴していただくために、入浴前にはバイタルチェックと本人の希望を確認したうえで入浴を促しています	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムや体調に合わせて、休息していただいております。また、その時に応じて、室温・寝具の調整・衛生面に気を付けています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットは異なる職員がダブルチェックし、記録を残します。また、服用時にも異なる職員がダブルチェックをしてから介助や確認を行い、服薬後に飲ませた職員がその記録を残し、空袋も確認しています。薬に関する変更は申し送り・業務日誌・往診ノートなどで、職員同士の情報共有をしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様に合った手伝いの声掛け（洗濯たたみやテーブル拭き等） また、レクとして季節に合わせた作品作り（日めくりカレンダーを全員で作成し、利用者様が毎日、日付を交換）や職員のギター演奏に合わせて歌唱したりしています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、持ち回りのレクリエーション委員が中心になり、計画・実行を予定しておりますが、現在、コロナの影響で実施できておりません。	日常的な外出支援は天気や気候をみながら事業所周辺を散歩にお連れしたりしています。また、レクリエーション委員会を中心に外出レクを計画・実行していますが、現在はコロナ禍の影響で遠出の外出などは自粛しています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて特定の職員数名が担当しています。職員同行の外出時では、買い物なども行っています。入金・出金については、利用者さまごとの出納ノートを作成し、ご家族が来所されたときに確認をお願いするか、郵送にて記録をお届けしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも連絡が取れるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の整理整頓を行っています。環境衛生委員を作り、点検などを行っています。フロア・廊下には季節ごとの行事の写真・貼り絵などの利用者様の作品などを飾っています。室温・照明なども配慮し、必要に応じて調整しています。	共用空間は皆が気持ちよく過ごせるよう、環境衛生委員を設け、委員の職員を中心にヒヤリハットや整理整頓を心がけています。リビングや廊下には行事の写真や季節に応じた装飾を行い、殺風景にならないよう留意しています。また、室温や湿度・照明の明るさにも配慮し、不快感なく過ごせる共用空間づくりを行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に休めるようにソファを設け、会話がしやすいよう配置しています。状況により、テーブル席の席替えも行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ごとに職員の担当を充て、整理整頓を行っています。また、安全面も配慮しています。さらに居室には使い慣れた家具や馴染みの小物を持参していただき、安心して過ごせる環境作りを心がけています。また、起床直後の時間などを活用し、居室内の空気の入替えも行っています。	各居室ごとに居室担当者を設け、居室の整理整頓を行っています。入居時には使い慣れた家具や寝具、思い出の品などを持ち込んでいただくよう伝え、自宅に近い生活環境を整えてもらうようにしています。各居室の入り口には名札を取り付け、自身の居室だとわかるようにしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名札を付け、利用者様ご自身が自室だと分かるようにしています。トイレには各利用者様のカゴを用意し、リハパン・パット類などを分かりやすく収納し、可能な方は自力で交換もされています。また、建物内で危険箇所がないか注意し、必要に応じて管理者に報告しています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームのぞみ

作成日

令和3年7月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	言葉遣いや対応が丁寧では、無い時がある。	利用者様が毎日を楽しく過ごされ、不安に思ったり、困ったりすることが無いように、職員の質の向上を目指す。	外部や社内の研修に参加し、発表の場を設けたり、会議の中で話し合いの場を定期的に設ける。	1年間
2	23	コロナの関係で、ご家族様との面会が中なあか出来ていない為、要望や意見などを聞く機会があまりできていない。	ご家族様の意見や要望を聞いて、改善につなげていく。	ご利用者様の様子や情報などを定期的にお便りする。 アンケート調査を行い評価が良くないところを職員同士で話し合い改善していく。	1年間
3	7	開設してから、コロナの関係で、町内会の行事などに、ほとんど参加出来ていない為、鋼流が出来ていません。	町内会の年間の行事や施設側で出来ることを探していく。	コロナに影響のない行事などに積極的に参加していく。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。